Ι

問六 問一 問五 問四 問三 問二 問一 問五 問四 ${\rm I\hspace{-.1em}I}$ ②考える自己/思惟する私/思惟する自己 ものとして退け、この懐疑の末に絶対に疑うことのできない真理に到達した。 (5) 皆目 法で、デカルトはまず感覚的経験に疑いの目を向け真理から外し、さらに数学的真理についても疑わしい ①絶対に疑うことのできない真理を発見するために、疑うことのできるものは全て徹底して疑うという方 2 4 4 蓑 3 2 考えない私 真なるものはなにもない $D \rightarrow C \rightarrow A \rightarrow E \rightarrow B$ (ア)滴(る) 7 3 4 (イ) 途方 4 1 (三点) (三点) (三点) (三点) (各二点 (各一点 (二点) (二点) (三点) (三点) (三点) (二点) (三点) (三点) (一点) 計六点) 計二点)

1

(二点)

- ・馬がようやく通れるほどの道幅しかなく、片側は断崖になっているから
- ・川は急に狭くなり、両側の岸が鋭く切り立っていたから
- ・神通峡と呼ばれる難所で、道は絶壁の中腹をぬってつづいていたから

問十一 直行(又は直進)

(オ) めいふく (キ) しわざ

問十

問十二 (解答例)※次の内の二つを含んで解答していればよい

・花鳥画や山水画にも筆をそめたいから

・このまま田舎の絵仏師で終りたくないから

狩野永徳と肩をならべるような絵師になりたいから

各一点 計二点)

(二点)

(各二点 計四点)

【出題意図】漢字の読み書きや問題文の内容読解に関する能力を問い、論理的な文章表現力を試すための出題となっている。